

〔社 会 部 門〕

1. 団 体 名 アートスペース獺
2. 分 野 現代美術ギャラリー
3. 設 立 年 昭和51年（45年目）※R3.1.6現在
4. 所 在 地 福岡市



【経歴及び選考理由】

昭和51年、福岡市中央区天神の親不孝通りに、喫茶店「屋根裏 獺」が開店。「アートスペース獺」は、この喫茶店に併設された8畳ほどのギャラリーである。

オーナーである小田満さん、律子さん夫妻は、昭和47年、九州産業大学前に、喫茶店「獺」を開店。九州産業大学芸術学部の学生や若手講師が連日詰め掛け、店内で彼らによる熱い芸術談義が毎日のように繰り返されるうちに、彼らの発表の場を兼ねた店を開こうと決意し、2号店である喫茶店「屋根裏 獺」並びに現代美術専門ギャラリーの「アートスペース獺」を開店する運びとなった。

当時は、本県に現代美術のギャラリーがなかった時代で、小田夫妻は開店時から、芸術家志望の大学生らの個展を開催するなど、彼らに発表の場を提供してきた。以降、絵画やデザイン、彫刻、空間アートのインスタレーション、写真などの作品展を月2回のペースで催しており、これまでに作家は延べ千人近く、来場者は40万人を優に超えている。

「アートスペース獺」で腕を磨いた学生たちは、九州産業大学の教授や講師、高校の美術教師などの道へ進んだ。中には、女性写真家の野村佐紀子氏や絵本作家のよしながこうたく氏などの売れっ子作家やデザイン事務所を立ち上げ活躍している卒業生もいる。

小田夫妻は、あらゆる表現の作家と関わり、より多くの人々の橋渡しを試みてきた。アートスペースと喫茶店の併設の意義は、作家と来場者のコミュニケーションが取れる場であると考え、「アートスペース獺」では、本県の若手アーティストに限らず、国内外の作家による企画展も開催。また、「屋根裏 獺」でも、上映会、舞踏、音楽ライブなども行い、人と人が出会う場を創出し続けている。

現在も、ギャラリーへの来場者の多くが、喫茶店で作家を囲んで感想を語り合ったり、作家たちの展示方法の打ち合わせに加わったりと、作家と来場者の交流が行われている。

このように、「アートスペース獺」は、本県の若手アーティストたちの才能を育み、その活動を支える場として、長きにわたり活動を行っており、本県の芸術文化の向上・発展に大きく貢献している。



お店の入口



オーナーの小田夫妻



展覧会の様子



（参考）社会部門：地域の特性を活かした活動を行い、個性豊かで潤いのある地域社会づくりに功績があったもの
又は国際交流、地域間交流など広範な文化交流活動を行い相互理解、文化交流の発展に貢献したもの